

ECOユニット活動 ドボク管理の節電対策

北海道の電力事情

東日本大震災を契機に自然エネルギーや電力への関心が高まる中、昨年11月、政府より今冬の電力需給対策が発表されました。

同対策によると、北海道では、「発電設備一機に占める割合が大きいくこと」や「本州との間で電力融通を行う設備が北本連系統のみであること」、「融雪・暖房、ライフラインの凍結・積雪対策に必要なこと」といった特有のリスクにより、この冬、全国で唯一の数値目標（一昨年度比7%以上の節電）が掲げられています。

【北海道における今冬の節電期間】

朝 ↓ 夜	2012		2013		
	12/3~12/7	12/10~12/28	1/7~3/1	3/4~3/8	3/11~3/29
	8:00 ↓ 21:00	8:00 ↓ 16:00 16:00 ↓ 21:00	8:00 ↓ 21:00	8:00 ↓ 16:00 16:00 ↓ 21:00	8:00 ↓ 21:00

... 数値目標を伴わない節電 ... 一昨年度比で▲7%以上の節電

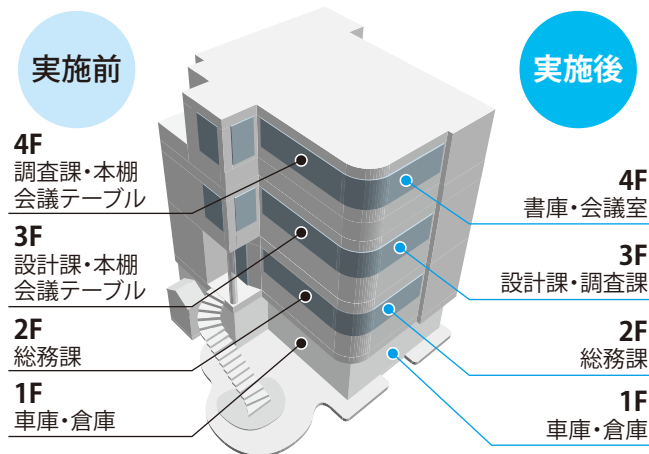
※土日・休日及び年末年始(12/31~1/4)を除く

冬季の停電によってライフラインが使えなくなる恐ろしさは、昨年、室蘭市・登別市などで発生した「記録的な暴風雪、大規模な停電」が記憶に新しいところです。積雪寒冷地である北海道の停電は、生命・身体の安全に重大な影響を及ぼしかねません。

当月(2月)は、北海道における今冬の電力需給見通しによると、供給予備力が33万kw(予備率5.8%)となっており、最も予備率が低下する月にあたります。

このような状況の中、当社としても、夏季から取り組んでいる節電対策をより一層進めていく所存です。

今回は、「節電」に着目し、当社で取り組んでいる節電対策をご紹介します。



つく~るシェア

※つく~るシェアとは、「涼しい場所をみんなでシェアするCOOL SHAREをワークスペース内で創出する」という意味の当社が名付けた造語です。冬季は、暖かい場所をシェアするWARM SHAREの効果もあります。

北海道では、夏季・冬季ともに長い時間帯に電力のピークが継続する特徴を持っています。

長時間の節電を実施するため、当社(本社)では、COOL SHAREをヒントに配置換えによる節電に取り組みました。本社の技術部門は、3F設計課、4F調査課に分かれており、それぞれに本棚や会議テーブルなどがあります。そこで、3Fフロアに設計・調査課のデスクを集約化し、4Fフロアに書庫、会議室を作ることで、ワークスペースの冷暖房共有による電力削減と平面的な照明電力の削減に取り組みました。



4Fの会議室



4Fの電力を節減

社員の手により、大規模的な引っ越しを行い、普段は、ほぼ無電力のフロア(書庫、会議室のみのフロア)を創出することができました。



3F/照明の間引き点灯

また、ワークスペースの冷・暖気がフロア全体にいきわたるよう、サーキュレーターを併用することにより、空気を循環させるとともに冷・暖気を逃がさないよう二重扉を新たに設置し、冷暖房効果を高めました。



3F/サーキュレーター



3F/二重扉

当社としては、これらのハード対策にあわせて、引き続きエコユニット活動による社員の環境意識の向上、COOL BIZやWARM BIZ、間引き点灯等のソフト対策を行うことで、節電に取り組んで参ります。

資源エネルギー庁推計によると、一般的なオフィスビルにおける用途別電力消費比率は、照明とOA機器で約71%を占めるとのデータがあります。

政府の節電ポータルサイトでは、照明やOA機器の節電メニューが記載されています。是非この機会に無理なく実施できるものから、「節電」に挑戦してみても、いかがでしょうか。

政府の節電ポータルサイト
<http://setsuden.go.jp/>